

| | | | |
|-------|---|------|-----|
| 単元名 | 言葉に出会うために 一野原はうたう 声を届ける 書き留める | 配当時間 | 5時間 |
| 単元の目標 | (1) 声の大きさや読む速度、言葉の調子や間の取り方を工夫して音読することができる。 学習の記録(ノート)の書き方を選び、書くことができる。 (2) 各詩で作者が伝えようとする思いを読み取ることができる。 好きな詩を選び、どのように読むか、理由を発表し、交流することができる。 (3) これからの国語学習の基本となる事柄を理解させ、実際に行動に移そうとする。 | | |

標準的な展開例

10210102_001

【準備等】日本十進分類表の詳しい資料、国語辞典、漢和辞典、百科事典

| 学 習 活 動 | 留 意 事 項 など |
|---|---|
| <p>1 「言葉に出会うために」(p. 12～p. 13)を読んで「出会い」について語り合い、「書き留める」(p. 18)を読み、ノートの取り方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「言葉に出会うために」(p. 12～p. 13)を読んで、「出会い」について語り合う。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★国語は、言葉に出会うための教科であることを知ろう。 <p>○「書き留める」(p. 18)を読みながら、ノートの書き方を確認する。</p> <p>○印象に残った言葉や感想をノートに書く。</p> <p>2 「声を届ける」(p. 16～p. 17)を読み、学習の流れや音読の基本を知り、「野原はうたう」(p. 14～p. 15)を読んで内容をつかみ、音読の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「声を届ける」(p. 16～p. 17)上段の学習に取り組む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★声を届けるために意識することを知ろう。 ○下段を読み、音読や発表の際の留意点を知る。 <p>○「あしたこそ」「おれはかまきり」を工夫点を考えて読む。</p> <p>○板書を写し、感想を書いたり、メモを書いたりする。</p> <p>3 前時で考えた工夫を生かして音読の発表をし、自分たちの発表や友達の発表を振り返り、ノートに記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★詩の内容を理解し、音読を工夫しよう。 ○グループに分かれて、詩の音読の工夫点について話し合う。 <p>○音読の練習をする。</p> <p>○音読の発表会をする。</p> <p>○授業の感想を書く。</p> <p>4 学校図書館へ行き、図書館の仕組みやルールなどを知り「図書館の使い方」(p. 60)を読んで、これからの読書生活について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★図書館の仕組みやルールを知ろう。 ○学校図書館に行き、「図書館の使い方」(p. 60)を読む。 <p>○図書館の仕組みやルールなどを知る。</p> <p>○「続けてみよう」(p. 20)を読んで、本を選び読書記録を実際を書く。</p> <p>5 「言葉を調べる」(p. 19)を読んで、辞典について学び、百科事典を引いたり、メモの仕方を学んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「調べる」(p. 19)を読んで、辞典の様々なことについて知る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★いろいろな辞典の引き方を知り、得られる情報を理解しよう。 ○国語辞典と漢和辞典を引く練習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな発表をしてきたか、どんなノートの取り方をしてきたか、読書について関心があるかなど、小学校での国語学習を大まかにつかむようにする。 <p>【評】感想やメモをノートに書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「声を届ける」という意識をもたせ、ペアを作って取り組ませる。 ・音読や発表の際の留意点を一つずつ確認させる。 <p>【評】留意点を意識して音読する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書き留める」(p. 18)を再度押さえながら、ノートに書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループは、4人ぐらいが適当である。 ・工夫点を書き込みながら、台本作りをさせるとよい。 <p>【評】声を届けることを意識して発表することを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十進分類法を見ながら、ラベルの意味を理解させる。 ・ラベルについての簡単な問題を出すと、生徒の興味も湧きやすい。 <p>【評】読書記録に記入する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き方のルールや書いてあることを確認し、 |

引き方の練習をさせる。
【評】国語辞典と漢和辞典を実際に引く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

小中連携の必要性が問われる中、小学校での学び方を確認しつつ、中学校での新しい国語の学習の仕方について準備するための最初のステップである。この時期、小学校との違いに戸惑い、「中1ギャップ」に陥る生徒もいる。夢や希望とともに不安も感じながら入学してきた生徒たちが、不安を解消し、夢や希望をもって中学校生活を送れるよう、国語の基本的な学び方をまずは学習させたい。ここでは、新しい友達とともに、声を届ける喜びを実感し、またノートを取り方や本との出会い方、情報の活用の仕方などを押さえる。どれも小学校で学習済みのことであるが、中学校においても基本となる学習習慣である。小学校での学習と滑らかに接続させ、安心して中学校の授業に臨めるようにしながらも、新しい場所で新しい国語の授業が始まることへの期待感を高めた。